

米の生産調整の経験を踏まえ、二十一世紀へ向けた農

業のあり方を展望した長期的観点に立った創意工夫を!!

# 地域農政推進大会

二月二十二日、地域農政推進大会が文化会館で開催され、農政推進員、農業団体関係者など、約三百人が参加しました。水田農業確立対策前期の最終年にあたる平成元年度。後期へのスムーズな移行を目指すとともに、農業の新しい展開を見い出そうという意気込みが感じられました。大会では、平成元年度の水田農業確立対策の推進方針をはじめ、転作や複合経営の体験発表、「あきたこまちの安定多収栽培と冷害克服について」と題した講演や、各種競技会、米消費拡大コンクールの成績発表並びに表彰などが行われました。

## 転作率二四・六%

平成元年度の転作等目標面積配分は、六十三年度同様一律二二・六%の転作率で配分することになりました。また、六十三年度から実施されている米需給均衡化緊急対策についても、現在の米の在庫が依然過剰基調にあることから、引き続き実施す

ることになりました。

これにより、昨年と全く同様に、二二・六%に二%を加えた二四・六%の配分となります。

## 他用途利用米

### 増枠配分

転作の内数として計算される他用途利用米については、米需

給均衡化緊急対策の分として六十三年度より千二百四十八俵多く配分がありました。これは各農家へ、転作目標面積に一律一七・八%で配分(六十三年度は一六・五%)します。他用途利用米は強制ではありませんから、取捨選択は各農家にお任せします。なお、限度数量も昨年と同量の配分がありました。

## 米消費拡大コンクール

(作 文・図 画・標 語)

川口小・六年  
佐々木梢  
「米を食へよう」  
城南小・六年  
浅野大樹  
「米飯大好き」



米消費拡大コンクールには、作文・図画・標語の各部門へたくさんの作品が寄せられました。その中から、最優秀賞を受賞した三人の作品をご紹介します。

〔標 語〕

城南小・三年 羽沢貴子

### 『朝の一ぜん』

### 大きな健康

## 米を食へよう

佐々木 梢

このごろ、テレビを見るとよく目につくことがあります。それは、米の消費量が大変へっていていることです。米は、昔から日本人の主食だったはずですが、私達の遠い祖先は、もう二千年以上も前から大切にしてきました。そして、米を作ることによって生き続け、子孫に伝えてきました。でも、昔は大きななどで米がとれなく、死んでいった人もたくさんいました。今は、何でもあるという時代ですが、何千年もの時のながれの中で、米作りは、改良を重ねて、今のようになってきたのです。その米を私達はもっと大切にしなければならぬのではないのでしょうか。

今、外国の米が輸入されると、日本の十分の一くらいの値段で売られるそうです。そのようになる、ただでさえへっている日本米の消費量はもっとへってしまいます。私は外国の米は輸入しないでほしいと思います。それに、日本人の主食は、昔から米だったはずですが、今では、パンなどを主食として食べている人がたくさんいます。それにメン類なども多量にまわっています。そして、日本人は、日本米の味を忘れてしまっているのではないのでしょうか。しかし、

日本人は、昔から米を食べて生きてきました。そのため米には、たくさん栄養ととも、日本人にとって必要な栄養もたくさんふくまれていると思います。それは、パンやメン類・外国の輸入米などではとれないような何かだと思っています。そのため、米はもっと食べるようにしてほしいと思います。また、米は一食を見てもパンよりは、だいぶたくさん栄養がとれると思います。米を主食としている人は、食事をするとき、たいていみそしるを飲むでしょう。しかし、パンでは、牛乳、またはスープなどでしょう。飲み物一つとっても、ご飯とパンではこのようになちがいがあります。おかしになるともっとたくさんのがいがあるのではないのでしょうか。ですから、もっとご飯を食べるようにならよと思っています。私は、米は私達日本人にとって、かかせない物だと思っています。また、米はたくさん使っている方があります。米を主食としてだけでなく、おやつなどとしても食べてみたい人や洋食で食べてみたい人などは、ドリアやパイなどにして食べてみればよいと思います。このように米をいろいろな方法で楽しく食べるようにすればよいと思います。米をたくさん食べましょう。